

営農だより 第5号



- 目標**
- ①食味値 80 点以上
 - ②『米ぬか』使用の土づくりによる食味向上、循環型農業の実践

～中干し以降の水管理で粒張りの良いお米を作ろう
水も酸素も欲しが上根が増える時期です!!～

今年の5月中旬は日中気温が上がり午後は一気に気温が下がるという極端な気温変化がありました。また後半には真夏日に迫る暑さもあり、日ごとの気温の変化がかなり激しい月でした。6月前半は例年並みに梅雨を迎え、降水量が増えて日照時間が減少しています。また今後7月中旬までは気温が高く、降水量は平年並みか多い見込みとなっています(今年の梅雨入り6月7日)。

現在の生育状況は葉齢平均 9.5 であり、昨年と同ステージとなっています。しかしここ数年と比較し分けつがかなり盛んになっています。梅雨明けの予想は平年並みであり、梅雨期間は大雨や局地的な雨にご注意ください。高温下で常時湛水状態であると過剰分けつや病気の発生が懸念されますので、水管理や農薬による対策をお願いします。(前月号参照)

御殿場・小山では田植え後約 60 日で最高分けつを迎えます。無効分けつを防ぎ、充実した籾となるよう中干しを実施し、その後間断灌水を実施しましょう。JA 推奨の「穂肥のいない施肥体系」を行っているほ場では、基本的に穂肥の施用は必要ありませんが、高温時や茎数が多いほ場では、粒を太らせるために穂肥を施用することも必要です。詳しい診断は各地区で予定している水稻生育診断にて行いますので、ぜひご参加ください!! 希望される方は最寄りの営農経済センターにお問合せ願います。

例年カメムシによる被害も増加しています。草刈りと薬剤による適期防除を行いましょ。

これから暑い日が続きます。気温が高くても湿度が高いと喉の渇きに気づきにくくなってしまいます。意識して水分補給を行うことを心掛けてください。

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目	平均気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月 計	13.7	11.5	2.2	161.8	161.3	100.3	328.5	252.6	130.0
5月 計	17.2	15.9	1.3	201.0	158.6	126.7	264.0	243.7	108.3
6月1～5日	18.4	17.9	0.5	16.1	23.1	69.7	86.5	32.3	267.8
6月6～10日	17.8	18.4	▲0.6	12.0	20.2	59.4	42.5	38.2	111.3
6月11～15日	18.8	18.9	▲0.1	25.5	17.5	145.7	13.0	50.1	25.9
6月前半 計	18.3	18.4	▲0.1	53.6	60.8	88.2	142.0	120.6	117.7

おいしいをつくりましょ。

富士伊豆農業協同組合

発行 令和8年6月19日
北駿産米改良推進協議会
JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
TEL:0550-84-4820

定点調査 生育状況

最終目標茎数 324 本/m²

6月16日(火)現在

場所	標高 (m)	播種日	田植え日	茎数 (本)	茎数/m ²	目標茎数 (%)	分けつ数(本)	草丈 (cm)	葉齢	葉色
神山	280	4/13	5/6	31.8	562	173.5	9.4	43.7	9.3	5.3
吉久保	370	4/5	4/30	30.1	471	145.4	9.1	43.1	10.0	4.8
大堰	400	4/4	5/4	27.6	423	130.6	8.9	43.5	9.2	5.3
用沢	460	4/14	5/9	22.6	344	106.2	5.8	39.0	9.4	4.8
中畑	550	4/5	5/5	32.6	507	156.5	9.1	39.4	9.8	5.2
上柴怒田	610	4/11	5/10	28.7	395	121.9	9.0	37.1	9.2	5.0
平均				28.9	450.3	139.0	8.5	41.0	9.5	5.1

穂肥の施用(コシヒカリ)

1)JA 推奨:穂肥のいない施肥体系 ～基肥+米の精肥料7号(60kg)施用ほ場

→基本的には穂肥は必要ありません。しかし高温が続くと肥料成分が早々に切れてしまうため穂肥が必要になります。生育を確認し、下記表に従って施用してください。

茎数	茎の太さ	葉色	穂肥
500 本/m ² 以上(27 本/1 株)	細い	4.3(SPAD 35)以下	適期に散布
400 本/m ² 以下(22 本/1 株)	細い	4.3(SPAD 35)以下	早期追肥

※株間 18cm、畝間 30cm の場合 ◎窒素 1kg=マップ 456 約 7kg/10a

2)従来の施肥体系 ～基肥+穂肥体系ほ場

→下記の穂肥診断方法を参考にして、適期適量散布しましょう。

肥料名	散布適期	散布量 (10a 当り)
マップ 456 (化成)	出穂 18 日前 (幼穂長 1 cm)	20 kg (N=2.8kg)
有機アグレット 727(有機)	出穂 23 日前 (幼穂長 3 mm)	34 kg (N=2.4kg)

穂肥診断方法 ※ほ場によって、生育状況が異なるので生育調査を必ず実施しましょう!

茎数(本/m²) ~1株当たりの平均値(本数/株)をm²当りの本数に換算

茎数/m²の算出 ~m²当たりの茎数(穂数)が適正であるかが重要です(最終目標 324 本/m²)

例) 11 株間の長さ 180 cm ÷ 10 = 株間 0.18m 畝間 30 cm = 0.3m 茎数 25 本/株

$$1 \div 0.18 \div 0.3 \times 25.0 = 463 \text{ 本/m}^2$$

※茎数は生育が進むにつれ次第に減っていきます。

6月下旬(最高分けつ期)では 463 本/m²が適正本数です。(株間 18 cm の場合)

茎数 430 本/m²以下 → 量を増やし、施用の時期を早める。

茎数 480 本/m²以上 → 量を減らし、施用の時期をやや遅らせる。

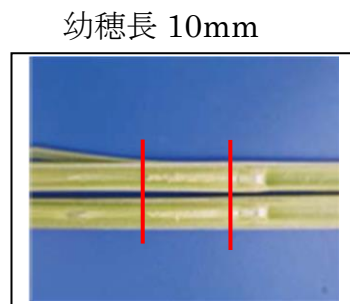
草丈(調査株の平均値) → 70 cm 以上であれば量を減らす。

幼穂長 → 幼穂の長さにより、出穂前の日数を確認する。(裏面参照)

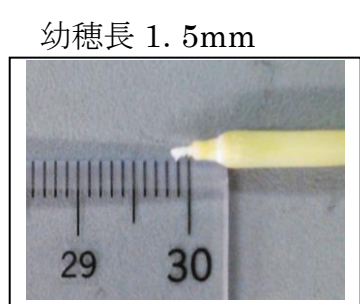
平均的な株 5~10 株を数えて 1 株当たりの平均本数を出す。

詳細は JA の生育巡回をご利用ください!!

幼穂長と出穂前日数



出穂 18 日前



出穂 27 日前

幼穂長	出穂前日数
2mm	25 日
3mm	23 日
5mm	20 日
10mm	18 日

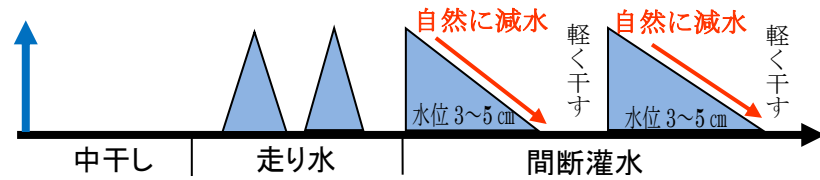
水管理

中干しが完了したら間断灌水を行い、急激な葉色の低下を抑えるために根に酸素と水を供給しましょう。

すぐに溜め水にせず、走り水で水稻を水に慣らす(走り水)

→ 2 回ほど走り水を行った後、自然に水が減って足跡の水がなくなった頃に再度入水

→ 間断灌水は 1 日新鮮な水に触れることで根傷みを避け、2~3 日かけて落水し、土壌を干して酸素を供給することで根の伸長を促す(以降間断灌水を繰り返す)



◎中干し後の水管理の注意点

長期の乾燥により根が酸化状態に慣れているため、いきなり灌水すると酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上がりが生じやすくなります。

溝切りを行っているほ場では、溝に水を流せば OK です。また、溝と溝のつなぎ目はしっかり通すようにしておきましょう。

間断灌水により酸素と水を交互に供給することで根の発育を促し、根の活力を維持します。間断灌水でうわ根をしっかりと張らせることで養分などを盛んに吸収できるようになり、出穂期以降の登熟や下葉の枯れ上がり防止、倒伏防止につながります。

稲こうじ病防除

～玄米へ混入すると出荷不可です！！

気象条件により発生量が大きく左右され、一般に低温・日照不足・多雨条件で多発します。ほ場で越冬した胞子が翌年の発生源となるため、昨年発生したほ場は必ず防除しましょう。

薬 剤	使用時期	使用量(10 a)
Z ボルドー粉剤 DL	出穂前 14 日～10 日	3～4 kg
モンガリット 1 [※] 粒剤	出穂前 21 日～14 日	1 kg

穂が見え始めたら、絶対に散布しない ⇒ 薬害あり(Z ボルドー)
玄米が変色(着色)し、JA での買い入れが出来ず、持ち帰りとなってしまいます。

(規格外にもなりません!!)

※稲こうじによる着色米は色彩選別機では抜けません。



カメムシ防除

カメムシが多発するほ場は、穂がほ場全体で 80%~90% 出た時期(穂揃期)とそれから 7~10 日後の 2 回薬剤を散布すると効果が高いので必ず行うようにしてください。

薬 剤	使用時期	使用量(10a)
トレボン粉剤 DL	穂揃期と乳熟期の 2 回	3 k g
スタークル 1 kg H 粒剤	穂揃期以降(出穂 7~10 日後)	1 k g

※トレボン粉剤は、ほ場全体・畦畔・農道等カメムシが生息している場所にくまなく散布。

※スタークル 1 kg H 粒剤は深水を避け、浅水(田面が露出しない程度)で散布。

<p>クモヘリカメムシ 斑点米を発生させ、出穂に合わせて水田に飛来。</p>	<p>ホソハリカメムシ 斑点米を発生させ、出穂期に水田に飛来。</p>	<p>イネカメムシ 出穂直後の被害で不稔、斑点米を発生。</p>
--	---	--------------------------------------

カメムシは耕種防除と薬剤防除の組み合わせで対策しましょう。

畦畔及び水田周辺の除草は、カメムシの密度低下に有効です。出穂 10 日前までに畦畔及び水田周辺の除草作業を完了させましょう。

畦畔の草刈りは 10 cm~15 cm ほどの高刈りをしましょう。地際まで刈り取ってしまうと生長点が地際にあるイネ科雑草はすぐ再生し、カメムシが好む植物が増えてしまいます。



草刈り機の刃は反時計回りに回転しています。このため草刈り機は右から左へ動かしましょう。刃を取り付ける際は刃の向きに気を付けてください。また草刈り後、草により水路が止水されていたり、取水口に草が詰まっていたりするのを見かけます。水路に落とししまった場合は熊手等で取り除きましょう。

【V 溝乾田直播栽培】試験ほ場：仁杉・深沢・山之尻

ほ場準備(代かき)：2 月中下旬 播種：3 月中下旬(乾田直播) 発芽時期：4 月 20 日前後

除草剤：1 回目 ラウンドアップ(発芽直前、4 月中旬)、

2 回目 クリンチャーバス ME 液剤等(入水前、5 月上旬~中旬) 以降通常の水管理

3 回目 中後期剤(ほ場状態により使用農薬、散布時期を決定)

5 月 15 日



5 月 25 日



6 月 15 日



ばか苗病の発生にご注意ください。

近年、水稻ほ場においてばか苗病の発生が散見されます。発生株は成熟せず枯死するため、多発すると減収につながります。またばか苗病は胞子を飛ばし、開花期の穂に付着し、種もみが感染します。

当地域は水稻種子の生産地域です。管内で皆様が栽培されているコシヒカリ・峰の雪もち・葵美人の種子は管内で生産された種子です。種子生産ほ場の近隣でばか苗病が発生すると種子のほ場が失格となってしまいます。

ばか苗病が発生しないよう種子消毒を徹底しましょう。

【対策】

種子更新の実施や、モミガード C・水和剤、エコホープ DJ 等の登録農薬の適正使用。浸種の温度が高いと発病率が増加するため、浸種温度は必ず 10~15℃を保つ。



茎葉が徒長して草丈が高く、黄緑色。出穂することなく枯死、または出穂しても不稔となる。株元に胞子を形成。